社会福祉施設職員の態度に関する研究

―伝統的価値志向と役割期待を中心として―

助川貞利
永田勝彦
忍　博次

問題の提起

社会事業の枠組及び性格は，その国の社会経済的要因によって決定的な影響をうけるということは否定出来ない。しかし個人の十全な発達と社会の改善及び進歩を，社会事業が己の目的とする限り[1]，内的な力として個人及び集団に働きかける社会福祉施設職員の努力もまた社会事業を動かす一つの原動力として，さらにその方向を規定する重要な要因として重視されねばならない。かれらは種々の実践場面，すなわち case work 場面において，group, intergroup への援助過程において絶えず価値の選択が迫られるし，かれらの信念価値体系に基く行動選択は，今後の社会事業の方向及び進歩の性格に大きな影響を与えると考えられるのである。社会事業教育の中で，より良き援助過程を行うための基本的技術として専門家たらん者に要請している「自我の客観化とその意識的使用」[2]ということも，社会関係に対する積極的，意識的関与者としての社会福祉施設職員に対する厳しい期待に外ならないであろう。

戦後の社会変動は多くの価値の転換をわれわれに余儀なくさせたが，一つの文化圏の中で歴史的に培かわれた精神構造の変化は容易ではない。社会事業の技術的考慮が社会関係の調整を主とし，それゆえに社会福祉施設職員の

主体的条件を問題にするならば，個人が Primary group の中で内面化してきた文化価値と知識観念体系として個人の中に注入された信念価値体系との葛藤と相剋は，社会事業近代化の一つの道程として分析が迫られるのである。

このような意味で社会福祉施設職員の精神構造を分析するには，もはや抽象的な意見の表明では意味をなさない。完全な分析を行なおうとするからには分析の客観性を保持するために信頼のおける数量的資料の上に解釈を加え，問題の核心をつく必要がある。そこで手はじめにわれわれはかれらの精神構造を行動決定の関係枠としての態度の次元においてとらえるのが妥当と考え，態度測定を手がかりとし，社会的諸要因との関連で分析をしようとした。

社会的態度の分析はこれまで多くなされているが，未だにその方法論，構造論において論争がつきない。その中で態度構造についてわれわれに大きな示唆を与えてくれたのは N. J. Eysenck である。彼は態度を体統的構造をもつものとして態度構造を，特殊意見，習慣的意見，態度，イデオロギーの四つのレベルに整理し，態度の中にみられる一般因子の抽出を試み， R・T 2因子を見出している[3]。田中は L. L. Thurstone が見出した急進—保守，国家—非国家の一般因子， Eysenck の主張する R・T の2因子が日本の精神的風土の中での妥当性を検証する一連の研究を行っている[4]。 さらに日本社会の現実的精神性に対する洞察として「日本人—文化とパーソリイテーの実証的研究」は示唆に富む。村松他はこの中で日本人の態度を日本人の伝統的価値志向，すなわち家父長制を中心とする四つの態度因子に分け文化の差及び文化変容と態度の問題を精密に分析している[5]。 また城戸は日本の社会意識構造を伝統的価値に絡みあった権威主義的態度対社会主義的イデオロギーが対置されたパターンとして分析している[6]。 同様に吉田は日本人の権威意識を中心として， Spranger の価値規準と社会的地位を対置させることにより，日本人の態度を明らかにしている[7]。

以上の研究はほとんどが態度の構造分析を中心とし，態度因子を抽出する

ことにあったが，必ずしも態度の一般理論が確立されたとはいえないし，特に先に述べた戦後のわが国における価値転換は日本人の態度の分析を困難にしている。しかしこれらの研究の中で一致して主張されていることは，日本人の伝統的価値意識が近代的合理性とのからみあいの中で情緒的な一貫性をもって存在しているということである。そこでわれわれは以上の研究を基に，態度の総合的把握という面からではなく，進歩，保守の軸より福祉施設職員の態度と，その専門性の所在を明らかにしようとし，第1に日本人のもつ伝統的価値志向を，第2に職業に対する役割期待と社会的評価を分析することとした。特に歴史的に社会事業の推進者として活躍し期待されながらも，それゆえに古い慈善事業からの脱皮，近代化の方途をさぐる民間施設職員に焦点をあわせ，施設集団と地域社会の媒介的存在として機能するかれらを，この二者との対比において明らかにしようとした。

研究の方法

以上の観点から，われわれは社会関係に対する積極的関与者としての社会事業従事者の態度の問題点を日本人の社会的性格としての伝統的価値志向に求め，特に田中，村松，吉田を参考に家意識，共同体規制，身分意識，精神主義，政治意識の5カテゴリーを設定した。意見項目の作成に当っては予備調査の結果を G.P. 分析にかけて妥当性を検証し，結局，態度においては各カテゴリー4項目，計20項目を適切な質問意見として選定した。態度調査表（付表）において意見項目番号の 1，6，11，16は家意識を，2，7，12，17は共同体規制を，3，8，13，18は身分意識を，4，9，14，19は精神主義を，5，10，15，20は政治意識をとらえようとしている。次に社会事業従事者の行為及び動機の型に大きな影響を及ぼすと考えらる役割期待を職業における期待特性と社会的地位に求め，12職種について10の期待特性の中から，各々の職業について期待される特性を選択せしめるとともに社会的地位の順序を求めた。特性は Spranger の個性の基礎類型による吉田の研究を参考に専門的な知識や技術がある，考える力がすぐれている，人格が高い，時代に

対する批判力がある，年期が入っている，社交的である，財産がある，努力家である，弱い者の味方である，体力にめぐまれている，の10項目を設定した。また，12職種の選択は職業大分類による各職群に一つは充当すること，日本における職業の格づけ[8] の中でこれらの職種が大凡平均してちらばること，日本的士農工商イメージが明らかにされること，福祉施設職員が適切に対比されることを条件に，裁判官，医師，牧師，小学校教師，警察官，会社員，市役所職員，芸能人，農家，工員，小売商の11職種を福祉施設職員に対比せしめた。

態度得点は調査表に表記された態度尺度値に中央の値を入れ，賛成から反対まで7段階として数字を換算し，各人，各態度カテゴリーごとに加算し，集計整理した。さらに態度差異を示す影響要因としての標識を性，年令，学歴，職務内容，経験年数に求め，これらを福祉施設職員，市民，入所者夫々の中で比較し，次に各集団の態度得点の比較をt検定によって検討した。職業に対する期待値では各々の職業について期待される特性に○を，その中でも特に重要と思われる特性に◎を記せしめたが，整理に当たっては◎に特にウエィトをおかず，各一点として加算し，福祉施設職員，市民，入所者三集団の間で χ^2 検定によりその差をみた。社会的地位については各職業の順位を加算し平均値をとり，三集団間で比較した。

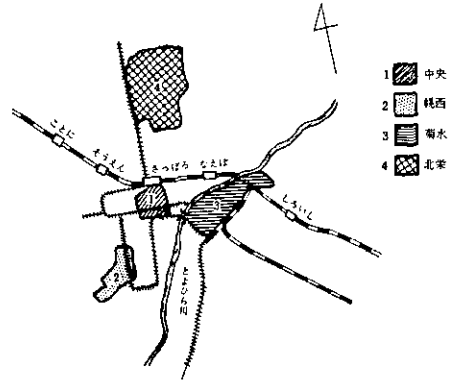
調査は本学社会福祉学科学生を調査員として可能な限り面接で回答を求めたが，出来得ない者に対しては後刻訪問し回収した。調査期間は昭和38年9月1日から9月15日の間である。

対　　象

福祉施設職員：札幌市内及び近郊の民間児童施設11，民間成人施設4の従事者235名の悉皆調査を行った。特に民間施設従事者のみをとりあげたのは，民間施設が社会事業の中核的推進者としての役割を過去も現在ももちながら，その歴史的背景の重みと劣悪な条件の中で新しい社会事業へ脱皮の苦悶の最中にあると考えたからに外ならない。

札幌市民：市民の態度を適確にとらえるには出来るだけ市民を代表する標本を選ばねばならない。われわれは市の行政区劃，産業構造，人口動態，所得水準等の38年度発行統計資料を基に次の４地区を選定し（１図），選挙人登録簿から各投票区別総有権者数に比例して成人400人を無作為に抽出し，調査を行った。

１図　札幌市地図



① 中央地区：市の中心部を占め商店街としての性格をもつ。

② 幌西地区：市の住宅地として古くから開け，中産及び高所得階層地帯としての性格をもつ。

③ 菊水地区：小工場及び勤労者住宅地としての特徴をもち，また低所得階層地帯でもある。

④ 北栄地区：近年著しく開発された郊外住宅地で，団地及びサラリーマン持家が多い。

入所者：札幌市内の４つの民間成人施設から調査可能な者71名を対象とした。

結果と考察

対象者のプロフィール

調査対象は１表の通りであって，その実態は施設職員については２表，市民については３表，施設入所者については４表のごとくであった。

施設職員では，性別で女性が73.5％を占めきわめて多かったが，これは児童福祉施設が多く，従って保母が多数を占めていたことにもよるであろう。年令別では約半数が20代で占められ，30代までを含めると74.7％となり若い層の多いことが指摘される。学歴別では大学卒が21.2％，高校卒を含めると74.7％となり，他は小卒・中卒の順であった。職務別では指導員と保母が

1表　調査対象

	対象数	回収数	回収率
福祉施設職員	235人	170人	72.3%
(児童施設 成人 〃)	(189 46)	(135 35)	(71.4 76.1)
札幌市民	400	202	50.5
施設入所者		71	

<注>施設は札幌市内及び近郊の民間福祉施設15の悉皆調査。
入所者は成人施設の中調査可能の者のみを対象とした。

2.1 表　施設職員の実態

性＼年令	20～29才	30 ～ 39	40 ～ 49	50以上	計(%)
男	14	14	9	8	45(26.4)
女	72	27	17	9	125(73.5)
計 (%)	86(50.6)	41(24.1)	26(15.3)	17(10.0)	170(100.0)

2.2 表

年令＼学歴	大	高	中	小	計 (%)
20～29才	25	49	12	0	86(50.6)
30～39	6	22	1	12	41(24.1)
40～49	2	14	0	10	26(15.3)
50才以上	3	6	0	8	17(10.0)
計(%)	36(21.2)	91(53.5)	13(7.6)	30(17.6)	170(100.0)

学歴は，新学制で示し，旧学制は新学制に対応して含ませてある（以下同じ）

2.3 表

性＼学歴	大	高	中	小	計 (%)
男	15	20	1	9	45(26.4)
女	21	71	12	21	125(73.5)
計(%)	36(21.2)	91(53.5)	13(7.6)	30(17.6)	170(100.0)

2.4 表

性＼職務	指導員	保母	その他	計 (%)
男	32	0	13	45(26.4)
女	2	79	44	125(73.5)
計(%)	34(20.2)	79(46.5)	57(33.5)	170(100.0)

2.5 表

経験年数 / 性	～2年	3～9	10～19	20～	計（%）
男	10	24	9	2	45(26.4)
女	53	56	15	1	125(73.5)
計（%）	63(37.1)	80(47.1)	24(14.1)	3(1.8)	170(100.0)

2.6 表

職務 / 年令	指導員	保母	その他	計（%）
20～29才	11	50	25	86(50.6)
30～39	11	16	14	41(24.1)
40～49	8	8	10	26(15.3)
50～	4	5	8	17(10.0)
計(%)	34(20.2)	79(46.5)	57(33.5)	170(100.0)

2.7 表

職務 / 学歴	指導員	保母	その他	計（%）
大	12	14	10	36(21.2)
高	16	52	23	91(53.5)
中	0	5	8	13(7.6)
小	6	8	16	30(17.6)
計(%)	34(20.2)	79(46.5)	57(33.5)	170(100.0)

3.1 表　市民の実態

年令 / 性	20～29才	30～39	40～49	50～	計（%）
男	29	22	18	21	90(44.6)
女	32	29	27	24	112(55.4)
計（%）	61(30.2)	51(25.2)	45(22.3)	45(22.3)	202(100.0)

3.2 表

学歴 / 年令	大	高	中	小	計（%）
20～29才	10	35	13	3	61(30.2)
30～39	5	27	2	17	51(25.2)
40～49	7	20	0	18	45(22.3)
50以上	5	7	0	33	45(22.3)
計（%）	27(13.4)	89(44.1)	15(7.4)	71(35.1)	202(100.0)

4.1 表　入所者の実態

性＼年令	20～29才	30～39	40～49	50～64	65～	計（%）
男	5	15	13	13	10	56(78.9)
女	3	3	0	1	8	15(21.1)
計（%）	8(11.2)	18(25.4)	13(18.3)	14(19.7)	18(25.4)	71(100.0)

4.2 表

年令＼学歴	大	高	中	小	計（%）
20～29才	0	0	6	2	8(11.2)
30～39	0	5	0	13	18(25.4)
40～49	4	2	0	7	13(18.3)
50～64	0	7	0	7	14(19.7)
65以上	0	2	0	16	18(25.4)
計（%）	4(5.6)	16(22.5)	6(8.5)	45(63.4)	71(100.0)

66.7%で，その他は事務員・用務員・管理者・医師・看護婦である。経験年数別では2年未満の者が37.1%で10年未満までを含めると84.2%となり，多くの職員が経験的な浅さを示している。全体として施設職員の実態は，年令的にも経験的にも若い者が多く，特に職種として保母が多いことを示し，学歴も一般にやや高かった。

市民では，性別で女性がやや多く55.4%であって，これは有権者数の性別とやや異なり男性の回答が少なかったことを意味している。年令の構成は20代が最も多く30.2%で，30代，40代と進むに従って割合は減じており，学歴では大学卒が13.4%で，高校卒を含めると57.5%となっている。そして特に20代は他の世代に比べて教育の普及と高度化現象をみることができる。

入所者では，性別で男性が78.9%と多く，これは一時宿所提供施設入所者が調査対象の40%を示めていたことにもよるであろう。年令は65才以上の高年令層がかなりの割合を占めているが，養老院が対象に含まれていることによる。学歴では小卒が63.4%ときわめて高く，大学卒は5.6%にすぎない。

態度得点

伝統的価値志向を示すものとして仮定した5カテゴリーについてそれぞれ

5 表　態度得点

<施設職員>

		N	%	家意識		共同体規制		身分意識		精神主義		政治意識		計	
				M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
全体		170	100	13.95	5.54	14.55	5.06	10.68	4.47	15.54	4.96	13.33	4.66	67.91	20.00
性別	男	45	26.4	15.73	5.50	15.73	5.46	12.53	4.32	17.8	4.96	13.33	4.63	74.5	21.50
	女	125	73.5	13.30	4.85	14.12	4.51	10.02	4.34	14.72	4.60	13.33	4.51	65.54	18.86
年令別	20～29	86	50.6	11.28	4.22	12.64	4.52	8.70	3.35	13.69	4.48	11.88	4.12	60.90	21.04
	30～39	41	24.1	15.90	4.53	15.24	5.13	11.87	4.55	16.71	4.77	14.15	4.59	73.52	18.05
	40～49	26	15.3	15.27	4.86	17.15	3.82	11.92	3.88	17.81	4.04	14.46	4.58	76.42	17.10
	50以上	17	10.	20.18	3.63	17	5.15	15.76	3.86	18.76	5.35	15.94	5.34	87.44	19.33
学歴別	大	36	21.2	12.00	5.57	12.84	3.92	9.75	4.10	14.58	5.33	12.00	4.95	61.4	19.69
	高	91	53.5	13.91	4.88	14.49	5.14	10.24	4.30	15.05	4.56	13.11	5.61	66.59	18.66
	中	13	7.6	14	4.08	14	3.90	10.77	2.99	15.15	5.07	14	4.08	68.35	15.92
	小	30	17.6	16.4	5.44	17	4.52	13.10	5.09	18.40	4.76	15.30	4.76	72.5	17.53
職務別	指導員	34	20.0	15.06	5.72	14.97	5.43	11.88	4.15	17.35	5.13	12.94	4.59	68.91	19.88
	保母	79	46.5	12.18	5.39	13.51	4.12	9.22	4.18	14.23	5.06	12.59	4.40	61.84	16.36
	その他	57	33.5	15.74	5.56	16.26	5.42	12.00	4.44	16.32	4.17	14.63	4.92	74.5	20.24
経験年数別	0～2	63	37.1	12.95	4.98	14.14	5.41	11.19	4.73	14.81	5.03	12.62	4.99	65.77	21.64
	3～9	80	47.1	13.44	5.33	14.67	4.93	10.25	3.81	15.73	4.61	13.51	4.46	66.75	19.30
	10以上	27	15.9	16.78	3.39	15.11	4.33	12.44	4.19	16.78	5.05	14.11	4.16	74.87	16.88

<市民>

全体		202	100	16.17	4.95	16.69	4.02	13.79	3.98	18.65	4.74	15.62	4.55	80.79	16.90
年令別	20～29	61	30.2	14.25	5.30	15.87	3.96	11	3.44	16.56	4.60	13.36	3.85	68.60	15.97
	30～39	51	25.2	15.29	4.08	17.06	4.31	13.65	3.07	19.06	4.92	15.29	4.53	79.99	16.37
	40～49	45	22.3	18.00	4.34	18.00	3.16	13.20	3.66	19.27	4.65	16.27	3.91	83.61	11.89
	50以上	45	22.3	17.93	4.73	18.80	3.87	14.53	4.95	20.40	3.67	17.60	4.80	89.61	17.08

<入所者>

全体		71	100	20.21	4.69	19.87	4.55	17.25	4.38	20.42	3.99	18.23	4.81	92.67	18.86
年令別	20～29	8	11.3	19.25	5.04	21.13	5.18	14.38	5.29	20.75	3.90	16.63	5.29	90.75	20.58
	30～39	18	25.4	20.83	4.98	18.33	3.20	16.17	4.88	19.83	3.67	17.33	4.23	91.17	13.74
	40～49	13	18.3	17.69	4.43	20.69	3.93	14.46	3.30	19.31	3.36	16.08	4.91	88.35	13.32
	50以上	32	45.1	20.84	4.99	20.75	5.30	18.59	4.97	21.13	4.67	20.38	4.29	100.13	18.01

の反応の総和を平均したものが5表である。従ってこの得点が高いほど，保守的であり権威的態度をもつことを示すことになる。全体としてみれば，施設職員，市民，入所者という順に伝統的態度からの脱皮が認められ，施設職員が他二者に比して明らかに進歩的で自由な態度をもっていることが窺える。この傾向は5カテゴリーの夫々についても指摘されるが，年令・学歴についても若年令層・高学歴層程同様の点が認められ，特に6.1表，6.2表にみるごとく施設職員及び市民では年令において20代と他の世代との差が著しく，30代と50才以上とでもその差は有意であった。このように態度測定上での一つの有力な指標は年令にあることを手懸りとすれば，施設職員の性別有

6 表　t 検定表　　※※ P<0.01，※ P<0.05，（△ P<0.1）

6.1 表　施設職員

年　令	20～29	30～39	40～49	50～
20～29	＼			
30～39	※※	＼		
40～49	※※		＼	
50～	※※	※※	△	＼

学　歴	大	高	中	小
大	＼			
高		＼		
中			＼	
小	※			＼

6.2 表　市　民

年　令	20～29	30～39	40～49	50～
20～29	＼			
30～39	※	＼		
40～49	※※		＼	
50～	※※	※※	△	＼

学　歴	大	高	中	小
大	＼			
高		＼		
中	△		＼	
小	※※	※※		＼

6.3 表　施設職員：市民

全　体	※※

性		
	男	
	女	※※

年令		
	20 ～ 29	※※
	30 ～ 39	
	40 ～ 49	△
	50 ～	

学歴		
	大	△
	高	※※
	中	△
	小	※※

6.4 表　施設職員：入所者

全　体	※※

性		
	男	※
	女	※

年令		
	20 ～ 29	※
	30 ～ 39	※
	40 ～ 49	※※
	50 ～	※※

学歴		
	大	
	高	※
	中	
	小	※

6.5 表　市民：入所者

全　体	※

性		
	男	※
	女	

年令		
	20 ～ 29	※
	30 ～ 39	※※
	40 ～ 49	
	50 ～	※※

学歴		
	大	
	高	※
	中	
	小	※

意差は若い女性が多いという実態から理解し得る。施設職員，市民，入所者の三者を関連づけて示したのが6.3～6.5表である。施設職員：市民では，全世代にわたって職員に態度の近代性を認め得るが，特に20代においては有意差が認められ，これは女性における差と合せ考えるならば，保母の意欲的な態度を示しているものといえよう。また，高校卒，小学卒にも態度の近代性が有意差をもって現れている。施設職員：入所者の関係でも，入所者での該当者がきわめて少なかった大学及び中学卒を除いて，他の性別・年令別・学歴別の全てにわたって両者間に明らかな差があり，このような態度の有意差が施設内での接触上の困難さを予測せしめている。入所者の態度面における前近代性は，市民との間にも多くみられ，中でも高年令層においてすら1％の有意水準でもって差が現れていることを考えるならば，入所者の全体的傾向は一般市民から明らかな偏りのある層であることが指摘される。

期待特性と社会的地位

各職業に対する期待特性を示したのが7表である。12職業に対する市民の期待は，専門的知識と思考力の深さを求める裁判官・医師・小学校教師に比べ，施設職員は一般サラリーマンとしての会社員・市役所職員と同程度のかなり低い期待しかもっておらず，人格は裁判官・牧師・小学校教師ほどの高さを求めず医師・警察官程度の期待となり，年期や体力は相対的にきわめて

7 表　各職業への期待特性

施設職員（有効標本数 157）

	農家		医師		市役所職員		小学校教師		牧師		警察官		工員		福祉施設職員		小売商		会社員		裁判官		芸能人	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
専門的知識	115	73	147	94	60	38	130	83	85	54	99	63	100	64	121	77	46	29	50	32	134	85	103	66
考える力	20	13	101	64	51	33	116	74	92	59	75	48	25	16	82	52	27	17	47	30	123	78	33	21
人格	5	3	102	65	38	24	104	66	119	76	84	54	13	8	92	59	11	7	29	19	129	82	21	13
時代批判	19	12	31	20	63	40	109	69	64	41	88	56	24	15	90	57	53	34	41	26	114	73	40	26
年期	109	69	104	66	20	13	54	34	46	29	56	36	101	64	57	36	67	43	36	23	79	50	80	51
社交性	0	0	29	19	53	34	29	19	43	27	24	15	7	5	31	20	102	65	74	47	19	12	114	73
財産	50	32	41	26	0	0	1	1	4	3	2	1	2	1	6	4	52	33	2	1	11	7	20	13
努力家	109	69	73	47	66	42	99	63	67	43	71	45	95	61	107	68	71	45	76	48	73	47	102	65
弱い者の味方	4	3	67	43	37	24	29	19	102	65	103	66	3	2	108	69	9	6	2	1	73	47	5	3
体力	137	87	70	45	29	19	73	47	46	29	109	69	113	72	92	59	55	35	47	30	48	31	89	57

市民（有効標本数 181）

専門的知識	111	61	161	89	32	18	106	59	56	31	82	45	127	70	50	28	42	23	49	27	126	70	91	50
考える力	17	9	100	55	46	25	123	68	78	43	48	27	28	16	56	31	25	14	56	31	128	71	33	18
人格	4	2	84	46	34	19	109	60	125	69	72	40	5	3	77	43	8	4	21	12	132	73	11	6
時代批判	17	9	21	12	59	33	91	50	51	28	75	41	16	9	67	37	48	27	42	23	114	63	33	18
年期	107	59	103	57	10	6	40	22	30	17	40	22	111	61	25	14	74	41	21	12	61	34	83	46
社交性	2	1	36	20	37	20	29	16	34	19	22	12	5	3	38	21	95	53	74	41	11	6	120	66
財産	40	22	35	19	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	49	27	1	1	11	6	31	17
努力家	128	71	63	35	52	29	108	60	78	43	58	32	89	49	79	44	75	41	83	46	63	35	101	56
弱い者の味方	9	5	51	28	39	22	30	17	103	57	113	62	13	7	111	61	9	5	9	5	84	46	5	3
体力	151	83	52	29	29	16	48	27	25	14	101	56	122	67	21	12	43	24	45	25	32	18	81	45

入所者（有効標本数 44）

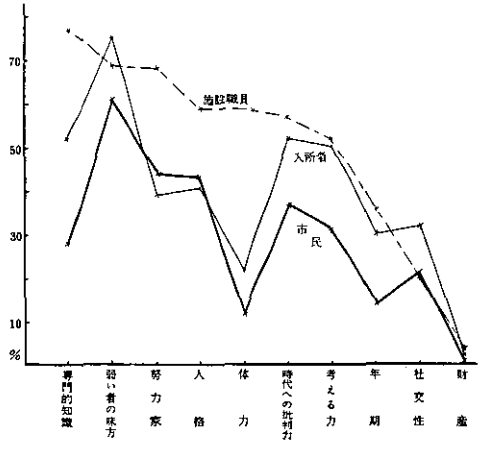
専門的知識	29	66	41	93	16	36	28	64	18	41	24	55	30	68	23	52	16	36	14	32	33	75	32	73
考える力	6	14	24	55	15	34	29	66	21	48	17	39	10	23	22	50	10	23	10	23	37	84	12	27
人格	2	5	28	64	7	16	27	61	28	64	19	43	4	9	18	41	2	5	2	5	40	91	4	9
時代批判	9	20	14	32	20	46	31	71	19	43	28	64	6	14	23	52	11	25	19	43	34	77	12	27
年期	29	66	29	66	9	20	18	41	17	39	15	34	30	68	13	30	21	48	11	25	23	52	30	68
社交性	2	5	14	32	14	32	14	32	12	27	6	14	1	2	14	32	17	39	16	36	11	25	31	71
財産	20	46	18	41	0	0	0	0	7	16	2	5	0	0	1	2	17	39	1	2	5	11	14	32
努力家	28	64	20	46	9	20	23	52	22	50	11	25	20	46	17	39	22	50	16	36	18	41	25	57
弱い者の味方	7	16	23	52	14	32	12	27	24	55	35	80	2	5	33	75	6	14	1	2	26	59	3	7
体力	40	91	11	25	8	18	13	30	10	23	21	48	34	77	9	21	14	32	8	18	10	23	11	25

低い。ただ弱い者の味方は牧師を凌いで最高の期待度を示し，また，時代に対する批判力も裁判官や教師に次いでかなり高い期待をもっている。入所者の期待する特性も市民のそれと近い傾向がみられるが，施設内での日常的な接触の多さから，専門的知識や思考力，時代に対する批判力といった知的な面への期待が増し，他の職業に比して中位な値を示している。これらの市民・入所者に対して施設職員自身はどのような特性を己の職業に期待しているかを7表，8表及び2図を通してみれば，専門的知識・技術を最も強く必要と考え，時代に対する批判力や考える力など知的職業としての自覚をもち，併せて弱い者の味方となって努力する高い人格をもつことが期待されてお

8 表　施設職員に対する期待特性の χ^2 検定　※※P<0.01，※P<0.05

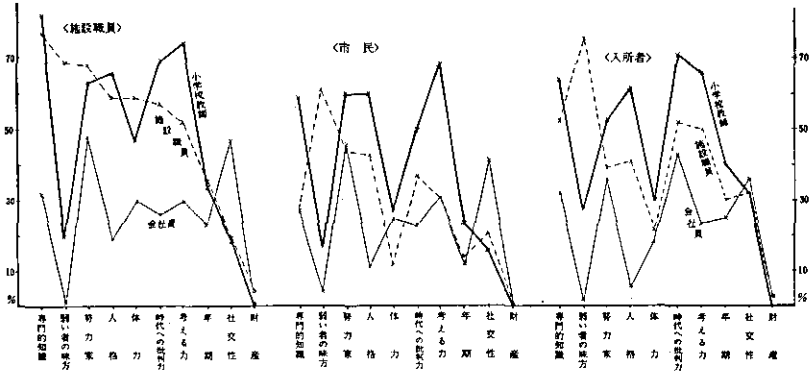
		専門的知識	考える力	人格が高い	時代に対する批判力	年期	社交的	財産	努力家	弱い者の味方	体力	有効標本数
A市民		50	56	77	67	25	38	2	79	111	21	181
B施設職員		121	82	92	90	57	31	6	107	108	92	157
C入所者		23	22	18	23	13	14	1	17	33	9	44
χ^2	A～B	※※	※※	※※	※※	※※			※※		※※	
	B～C	※※		※					※※		※※	
	A～C		※			※						

2 図　施設職員への期待特性



り，そのための実際的活動に当たって体力を要すると考えている。このことは専門的知識の深さや努力を要し,強い体力が望まれ,人格が高くなければならないとする点で市民及び入所者双方との間に明らかな期待の差を示しておりまた特に市民との間では考える力，時代に対する批判力といった知的能力や年期という経験の深さについても大きな差異が認められる。このような入所者特に市民の施設職員に対する理解不足は，一般に専門的職業と考えられている小学校教師や所謂サラリーマンとしてのイメージの強い会社員との比較によっても明らかである(3図)。三者共弱い者の味方としてある程度の人

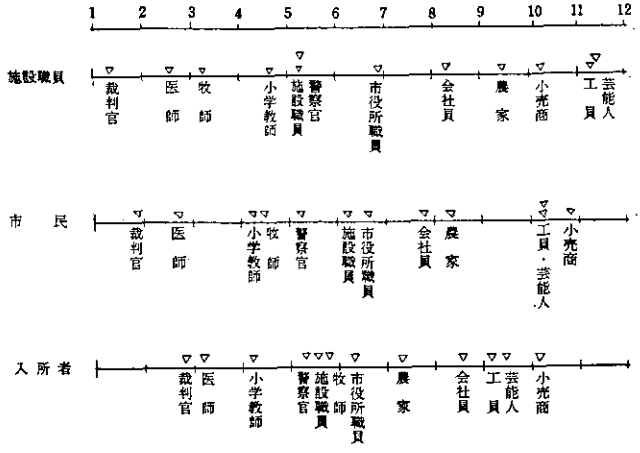
3 図　施設職員市民入所者の施設職員・小学校教師・会社員に対する期待特性



格の高さとともに時代への批判力を期待している点では同傾向を示しているが，他の知的能力や現実の仕事に対する他の面での理解には乏しく，施設職員では小学校教師と類似の特性の必要性を感じているのに対し，市民は会社員に近い要望しかもたず，入所者では中間的なところに位置づけている。このようなことは，職業別の社会的地位についても窺え(4図)，いわゆる知的専門職と考えられている職種の下位にあって，施設職員のもつ高度の役割意識にもかかわらず現実の社会における評価は高くない。しかも施設職員自身においてすら，他二者と同程度の社会的位置づけしかしておらず，この事実は社会福祉施設そのものが社会機構の中での威光と疎遠な関係にあり，従って権威的存在でないと考えられる面の他に，権威を支える専門的知的職業と

しての社会的理解と承認のなさからくる結果であろうし，また専門教育の不足を自覚している結果でもあろう。

4 図　職業別社会的地位



以上の事実から，施設職員は家意識・共同体規制・身分意識・精神主義・政治意識の夫々について市民・入所者に比し伝統的価値志向からの脱皮が急速に行われており，またかれら自身の自覚も一般社会人の期待も明らかに理想主義的世界観に立った人間像を意識している点から，社会進展の一翼を担う者としての精神的基盤は整えられているといえよう。しかしながら他面，かれらに対する一般社会の職業的理解は不充分で，両者間に大きな差を示し，特にかれらの頭脳的作業や体力については多くを期待しておらず，地域住民の正当な評価は与えられていない。もっとも自己の職業に対して過大な期待をよせる傾向は Newcomb も指摘している[11]ところであるが，現に施設に在って職員と接触している入所者が，市民より多くの役割を与えている点からするならば，かれらの過大評価は必ずしも自負的傾向とばかりは判断しかねるし，またもしその傾向が強過ぎる結果としても，職員のもつ態度と社会の役割期待とのギャップはかれらの自我を不安定なものとして，行動の制約を余儀なくされているものと考えられる。社会的地位が職務内容に対応し

て高い位置づけを得ていない傾向は，第1に White の研究におけるごとく[9] アメリカ社会においても認められる点であり，それが社会事業家のもつ弱小専門家という性格と社会的接触面での marginality に依存している点を指摘し得る。これはすでに Eaton によって主張されているところであり[10]，その意味では施設職員の社会的関係位置は marginal man としての特質を本来的に備えているといえよう。第2に施設職員は社会機構の中で権威ときわめて稀薄な関係にあり，これは吉田も示すごとく[6]，権威意識構造の要因としての prestige の弱さを意味しており，このような職業的性格からも規定されていると考えられる。また社会の期待する理想主義的世界観は専門職としての基本的条件である知的能力を強く望まず，職員の経済的不遇と相俟って未だに美談的社会事業家としての伝統的イメージから脱しきれず，社会関係調整者として施設職員のもつ専門家的職業観の確立を支えていない。そして職場にあっては入所者との間に基本的態度の差が大きく，相談助言の面での困難を予想させ，肉体的にも激しい職場であるという現実の理解を得ていない。

このように福祉施設職員の価値志向の近代性と専門職としての自覚は，地域社会集団のみならず施設集団からも明らかに逸脱しており，かれらの社会的葛藤と精神的不安定性を生ぜしめる原因の一つとなっている。この事実はかれらの社会事業推進の意欲を著しく減退させる力ともなるであろうし，媒介者としての具体的活動を制約することにもなるであろう。そして施設の近代化は地域住民の理解を必須の条件と考えるならば，特にこの面への積極的・組織的活動の必要性を痛感させられるのである。

要　約

本研究は民間社会福祉施設職員の態度を，伝統的価値志向と役割期待・社会的評価から明らかにせんとして，地域住民及び施設入所者との関係において相対的に把え，施設近代化の条件を実証的に探ろうとした。そこで，

1. 施設職員の態度は相対的にきわめて進歩的である。

2. 地域住民が施設職員に対してもつ image は，未だに理想主義的人間像に固執し，知的専門職として位置づけていない。
3. 成人施設入所者のこの点に関する理解も不充分であり，かれらの態度の前近代性は施設職員の接触指導の困難を予測せしめる。
4. 施設職員のもつ知的専門職としての自覚は，地域住民及び入所者のそれとの間に隔差を示し，それがかれらの自我を不安定なものとし社会的葛藤の要因となっている。

の諸点を認めた。この事実は社会福祉事業及びその従事者に対する正当な認識を得るための啓蒙を地域社会に積極的に行うことによって，広くかれらを支える社会的背景を作ることが施設近代化を促進する大きな要因であり急務であることを示唆している。またかかる態度研究は，施設職員の生活・職務の条件分析を必要とするであろうし，施設の意図や性格という背景をも見逃すことができない。残された問題として継続的な研究を要するところである。

（本研究は昭和38年度北海道総合開発研究費によるものである）

文　　献

1. Bosworth, Francis : Settlement and Neighbourhood Center. Social Work Yearbook, 1954, p. 471～472.
2. Ryland, Wilson : Social Group Work Practice. Houghton Mifflin Co., 1949, p. 13～15.
3. Eysenck, N. J. : The Structure of Human Personality. Methuen, 1953, p. 227～244.
   Eysenck, N. J. : Sense and Nonsense in Psychology.
   （小見山訳　心理学における科学と偏見　誠信書房 1961　P 250～269）
4. 田中国夫：日本人の社会的態度　誠信書房 1964
   田中国夫：心理学における態度測定の問題点　心理学評論 1960　P 266～280
5. 村松常雄他：日本人―文化とパーソナリイティの実証的研究　黎明書房　1962　P 101～113
6. 吉田正昭他：日本人の権威意識の構造　心研　1962 32巻6号　P 353～365
7. 城戸浩太郎・杉　政孝：社会意識の構造　社会学論集調査報告編　河出書房新社

1960　p 189～212

8. 尾高邦雄：職業と階層　毎日新聞社　1958　p 43

9. White, R. C.: Prestige of Social Work and the Social Worker. J. Social Work, Jan. 1955, p. 21～23

10. Eaton, J. W.: Whence and Whither Social Work? J. Social Work, Jan. 1956, p. 18

11. Newcomb, T. M.: Social Psychology, 1950.
（森・万成共訳　社会心理学　培風館）

<付　表>

次にいろいろな意見が書いてあります。あなたはそれについて，どう思っているかを，下に示す賛成，反対の程度にあてはめて，最も適当と思う番号を右の [　] の中に書いて下さい。

6	5	4	3	2	1
強くさんせい	さんせい	ややさんせい	やや反対	反　対	強く反対

例　子供をだますことは悪いことです。

（強くそうだと思うなら [　] の中に上の程度に従って [6] を入れる）

1　家族の一員があやまちをおかすのは，家の恥です。 [　]

2　自分で正しいと思っても，世間からとやかくいわれるようなことはしない方がよい。 [　]

3　上役は職場でも責任が重いのだからその意見に従った方がよい。 [　]

4　夫が死んでも妻は生涯，操を守るべきです。 [　]

5　理解のある経営者なら，組合をつくる必要はない。 [　]

6　親の面倒をみるのは，家をついだ者の責任です。 [　]

7　悪いことをした人は，できるだけきびしく罰しなければならない。 [　]

8　生れつき家柄や身分が高い人は，社会で重く用いられても仕方がない。 [　]

9　国が栄えるためには，国民全体が貧乏に耐えしのぶことが必要です。 [　]

10　村や町をよくすることは，お役所の仕事なのだからまかせておいた方がよい。 [　]

11　子供がなければ養子をもらって，家の後継をつくらねばならない。 [　]

12　縁起が悪いといわれるようなことは，しない方がよい。 [　]

13　無作法で育ちのよくない人が，礼儀正しい人と仲よく暮して行けるはずがない。 [　]

14　社会に落伍する人の最大の原因は，本人の努力が足りないことによる。 [　]

15　社会の人の迷惑にならなくともストライキはしない方がよい。 [　]

16　昔から家に伝わっている財産をなくしたりすると，祖先に対し申しわけがない。 [　]

17　神社の寄附を断わることは良い風習に反する。 [　]

18　女性の本分は家庭を守ることで，社会に出て働くことではありません。 [　]

19　きびしい訓練，まけじ魂，そして国家を守る精神が若い人に最も必要です。 [　]

20　今の日本の政治には，政策よりも皆をひつぱって行く強い力をもった人が必要です。 [　]

次の職業について，特に必要と思うことがらを選んでそれぞれの欄に○印をつけて下さい。そしてその中でも特に重要と思うことがらは◎印にして下さい。

（一つの職業で，○や◎印をいくつつけてもかまいません）

（例）

職業名 / 必要とされることがら	野球選手	農家	医師	市役所職員	小学校教師	牧師	警察官	工員	福祉施設職員	小売商	会社員	裁判官	芸能人
専門的な知識や技術がある	◎												
考える力がすぐれている													
人格が高い													
時代に対する批判力がある													
年期が入っている	○												
社交的である	○												
財産がある													
努力家である	○												
弱いものの味方である													
体力にめぐまれている	◎												

次に，下の職業について，社会で地位が高いと思う順番を（　　）の中に書いて下さい。

（　　）農　家　　（　　）小学校教師　　（　　）工　員
（　　）会社員　　（　　）医　師　　（　　）牧　師
（　　）福祉施設職員　　（　　）裁判官　　（　　）市役所職員
（　　）警察官　　（　　）小売商　　（　　）芸能人